

今年は昭和元年からちょうど 100 年目。激動の時代を経て令和の世を迎え、テクノロジーが生活を一変させても、人々の悩みや喜怒哀楽といった感情の機微はそう変わっていないように思います。進歩の速さの中で見失いがちな人間の本質的な部分に目を向けること。そこに、時代を超える知恵が宿るのかもしれませんがね。

逆転サヨナラ負け



6 月 13 日は「鉄人の日」。1987 年のこの日、「鉄人」の愛称で親しまれていたカープの衣笠選手が、大リーグのルー・ゲーリックの記録を破り、2131 試合連続出場の世界記録を達成。これを記念して制定された。衣笠さんはその後、国民栄誉賞を受賞し、連続出場記録を 2215 まで伸ばした。

素晴らしいカープ OB の記録だ。

さて、我らがカープ。そんな鉄人の日にあやかりたいところだが…

6/15、日本ハムに屈辱の逆転サヨナラ負けを喫し、2 カード連続で負け越した。7-2 の 8 回途中から継投策に入ったが、相手の反撃を抑えられず 2 点差に迫られると、9 回はダブルストッパーの一角、テイラー・ハーン投手が同点に迫いつかれた。最後は延長 10 回、栗林投手がサヨナラ本塁打を浴びて今季初黒星。6 回表終了時で最大 7 点あったリードをひっくり返され、新井監督は「自分のミス」と敗戦の責任を背負った。

栗林は打球が着弾した右中間席の方向を見つめたまま、しばらく立ち尽くした。7-7 で迎えた延長 10 回、先頭の田宮に痛恨のサヨナラ本塁打を被弾。カウント 3-1 からファウルを打たせるべくストライクゾーンに投じた 151 ㌔直球を、完璧に打ち返された。6 回表終了時に 7-0 と楽勝ムードだった試合は、最終的には 7-8 の敗戦となった。敵地の大歓声を全身にかぶった背番号 20 は、静かに口を開いた。

「三者凡退で抑えたいという気持ちだけでマウンドに上がり、準備もしていた。もっとレベルアップしないといけない」

とはいえ、栗林だけが悪いわけではない。相手の勢いに、救援陣全員がのみこまれた。

7-1 で迎えた 8 回が分岐点となった。まずは 7 回まで 1 失点投球を続けてきた森が先頭から 3 連打を浴び、無死満塁からレイエスに犠飛を許した。なおも 1 死 1, 3 塁で森は降板。だがまだリードは 5 点。ここでベンチは 2 番手として中崎を投入した。これが結果的に誤算となった。新井監督が振り返る。

「8 回で 2 点差までいったらもう流れが完璧に無効にいつている。昨日も勝ちパターンは投げていないし、あそこで森浦を用意させていなかったのは自分のミス。中崎もちょっと戸惑ったと思う」

右腕は続く野村に犠飛を浴びて 4 点差。田宮の三塁内野安打を挟み、1, 2 塁から宮崎にも三塁線を破る適時二塁打を浴びて 3 点差に迫られた。なおも 2, 3 塁で森浦にスイッチしたが、一手遅かった。後手に回った広島とは対照的に、相手打線は勢いづく一方だった。9 回にはとうとう試合は振り出し。そして 10 回、最悪の結末が待ち受けていた。

7 点リードからの逆転負けは 19 年 9 月 19 日 DeNA 戦以来 6 年振りで、新井政権では初の屈辱。この試合を良い教訓にし、後半戦は悔いのない試合を見せてほしいものだ。

頑張れカープ！！

エルフォルクはあなたを そしてカープを 全力応援致します！

裏面もご覧ください。

